

市民目線での 魅力づくり・ブランディング について

藤村龍至

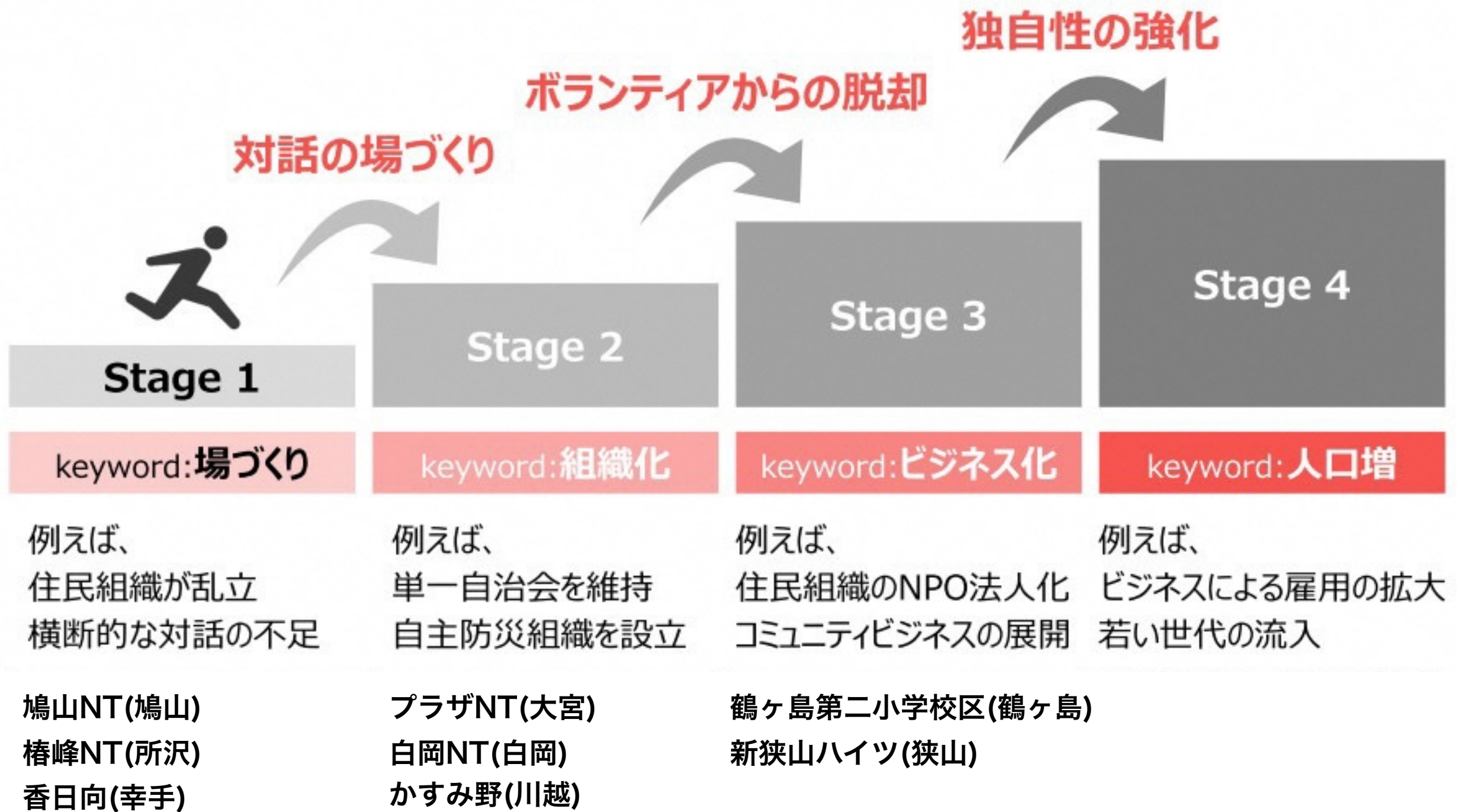
東京藝術大学/RFA

2019.2.4

多摩ニュータウン再生プロジェクト
シンポジウム



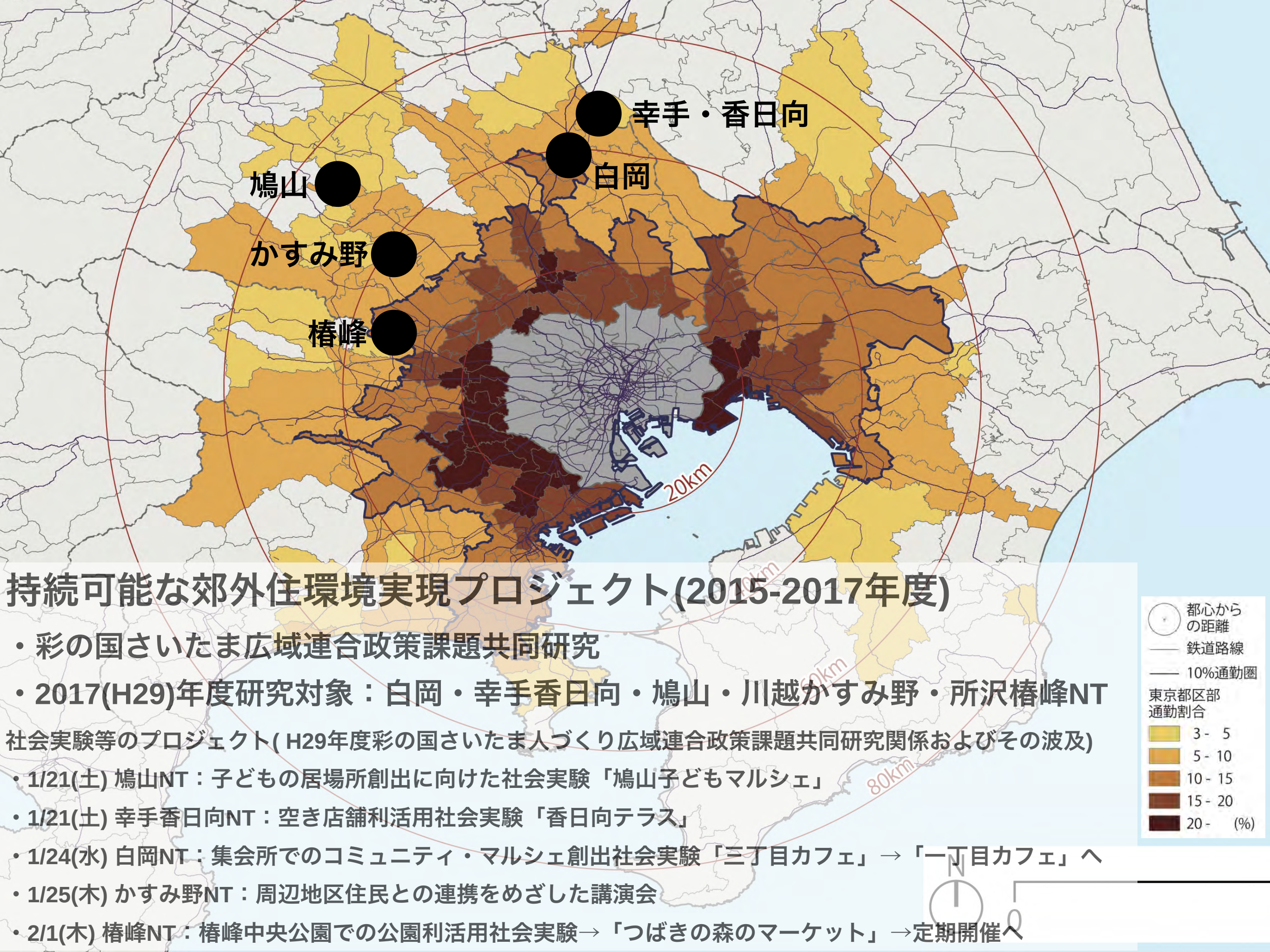
住民有志が実行委員会を組織し実現した「つばきの森のマーケット」 椿峰ニュータウン(埼玉県所沢市)・2018年10月28日開催



「地域経営の成長4段階」 出典 彩の国さいたま広域連合平成28年度政策課題共同研究「超高齢社会の包括的タウンマネジメント」 報告書

地域経営の成長4段階

- ・ニュータウンを地域経営の観点から4段階に分ける試み
- ・行政・民間・住民いずれも関与していないNT(例：椿峰NT)では住民アンケート等も難しい
- ・1000戸から3000戸くらいの中規模NTに独自の課題が多い



持続可能な郊外住環境実現プロジェクト(2015-2017年度)

- ・ 彩の国さいたま広域連合政策課題共同研究
 - ・ 2017(H29)年度研究対象：白岡・幸手香日向・鳩山・川越かすみ野・所沢椿峰NT
- 社会実験等のプロジェクト(H29年度彩の国さいたま人づくり広域連合政策課題共同研究関係およびその波及)
- ・ 1/21(土) 鳩山NT：子どもの居場所創出に向けた社会実験「鳩山子どもマルシェ」
 - ・ 1/21(土) 幸手香日向NT：空き店舗利活用社会実験「香日向テラス」
 - ・ 1/24(水) 白岡NT：集会所でのコミュニティ・マルシェ創出社会実験「三丁目カフェ」→「一丁目カフェ」へ
 - ・ 1/25(木) かすみ野NT：周辺地区住民との連携をめざした講演会
 - ・ 2/1(木) 椿峰NT：椿峰中央公園での公園利活用社会実験→「つばきの森のマーケット」→定期開催へ



住民集会所を利用したカフェ&マルシェ創出



コーヒーやお菓子と野菜や手芸品などの販売を行った

積極的な公共投資がない場合：既存の共有資産の利活用によるニュータウン活性化への貢献例

白岡NT：住民集会所を利用したカフェ&マルシェを試験的に実施

- ・ 白岡ニュータウン周辺から飲食店が撤退し交流空間が少ないという声を受けた社会実験
- ・ 「広域連合主催・自治会有志協力」により高齢化の著しい新白岡三丁目の集会所にカフェとマルシェを創出
- ・ 集会所の休業日に試験的に開催し、13:00から16:00までの3時間で来場者130人が来場
- ・ コーヒーやお菓子などの飲食、野菜や手芸品などの販売を行った
- ・ ニュータウン内の住民、66歳以上の来場者が多く、1時間以上の滞在も多かった



シンポジウム「椿峰ニュータウンの将来像を考える」(2017年1月)

中央公園で開催された「つばきの森のマーケット」(2018年10月)

空き店舗もない場合：既存の共有資産の利活用によるニュータウン活性化への貢献例

椿峰NT：シンポジウムから公園利活用、まちと緑をまもるプロジェクトへ

- ・ 1970年代に狭山丘陵を造成し開発されたニュータウン
- ・ 自然保護運動と開発事業が合意に至り厳しい緑地協定を設定したため今日でも豊富な緑地が残る
- ・ 横断的な住民組織がなく、討議の場もないことから討議の場としてシンポジウムを2回開催(初回300人来場)
- ・ 公共施設や保護緑地、空き店舗など利活用の可能性はあるが、中央公園での利活用が最も現実的と判断
- ・ 中央公園にカフェを創出した実験(広域連合公共空間チーム主催)では平日午前には80人が来場した
- ・ 住民の子育て世代女性を中心としたグループが実行委員会を立ち上げマルシェを開催(1500人来場)
- ・ 公園を利活用したマルシェを実現し、緑とまちを協働させる新しいまちづくり像の提示へ